

※ 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。問いに字数の指定がある場合は句読点や記号も一字に数えて解答すること。

1 次の文章を読んで、①～⑥に答えなさい。

「時間どろぼう」という言葉を記憶している読者は多いだろう。ドイツの作家ミヒヤエル・エンデ作『モモ』に出てくる言葉である。時間貯蓄銀行から派遣された灰色の男たちによって、人々の時間が盗まれていく。それをモモという少女が **A** カツヤクしてとりもどす。そのために彼女がとった手段は、ただ相手に会って話を聞くことだった。このフアンタジーは現代の日本で、**ますます重要な意味をもちつつあるのではないだろうか。**

時間とは記憶によって紡がれるものである。かつて距離は時間の関数だった。だから、遠い距離を旅した記憶は、かかった時間で表現された。「7日も歩いて着いた国」といえば、ずいぶん遠いところへ旅をしたことになった。その間に会った多くの景色や人々は記憶のなかに時間の **経過** ともならび、出発点と到着点を結び物語となった。

**①** しかし、今は違う。東京の人々にとって飛行機で行く沖縄は、バスで行く名古屋より近い。移動手段の発達によって、距離は時間では測れなくなった。時間にとって代わったのは費用である。「時は金なり」ということわざは、もともと時間はお金と同じように貴重なものだから大切にしなければいけないという意味だった。ところが、次第に「時間は金で買えるもの」という意味に変わってきた。特急料金をはらえば、普通列車で行くより時間を短縮できる。速達郵便は普通郵便よりも料金が高いし、航空便は船便より費用がかさむ。同時に、距離も時間と同じように金に換算されて話題に上るようになった。

しかし、これは大きな勘違いを生むものとなった。金は時間のように記憶によって蓄積できるものではない。本来、金は今ある可能性や価値を、**B** 劣化しない紙幣や硬貨に代えて、それを将来に担保する装置である。いわば時間を止めて、その価値や可能性が持続的であることを認める装置だ。しかし、実はその持続性や普遍性は危うい約束事や予測の上に成り立っている。今の価値が将来も変わることなく続くかもしれないが、もっと大きくなったり、ゼロになるかもしれない。リーマン・ショックに代表される近年の **C** 金融危機は、そのことを如実に物語っている。

時間には決して金に換算できない側面がある。たとえば、子どもが成長するには時間が必要だ。金をかければ、子どもの成長を物質的に豊かにできるかもしれないが、成長にかかる時間を短縮することはできない。そして、時間が紡ぎだす記憶を金に換算することもできないのだ。社会で生きていくための信頼を金で買えない理由がここにある。信頼は人々の間に生じた優しい記憶によって育てられ、**D** イシされるからである。

人々の信頼でつくられるネットワークを社会資本という。何か困った問題が起こったとき、ひとりでは解決できない事態が生じたとき、頼れる人々の輪が社会資本だ。それは互いに顔と顔を合わせ、時間をかけて話をするることによってつくられる。その時間は金では買えない。人々のために費やした社会的な時間が社会資本の元手になるのだ。

**②** 私はそれを、野生のゴリラとの生活で学んだ。ゴリラはいつも仲間の顔が見える、まとまりのいい10頭前後の群れで暮らしている。顔を見つめ合い、しぐさや表情で互いに感情の動きや意図を的確に読む。人間の最もまとまりのよい集団のサイズも10～15人で、共鳴集団と呼ばれている。サッカーやラグビーのチームのように、言葉を用いずに合図や動作で仲間の意図が読み、まとまって複雑な動きができる集団である。これも日常的に顔を合わせる関係によって築かれる。言葉のおかげで、人間はひとりていくつもの共鳴集団をつくることのできた。でも、信頼関係をつくるには視覚や接触によるコミュニケーションに勝るものはなく、言葉はそれを補助するにすぎない。

人間が発する言葉は個性があり、声は身体と結びついている。だが、文字は言葉を身体から引き離し、劣化しない情報に変える。情報になれば、効率が重視されて金と相性がよくなる。現代の危機はその情報化を急激に拡大してしまつたことにあると私は思う。本来、身体化されたコミュニケーションによって信頼関係をつくるために使ってきた時間を、今私たちは膨大な情報を読み、発

信するために費やしている。フェイスブックやチャットを使って発信し、近況を報告し合う。それは確かに仲間と会って話す時間を節約しているのだが、果たしてその機能を代用できているのだろうか。

現代の私たちは、一日の大半をパソコンやスマホに向かって文字とつき合いながら過ごしている。もつと、人と顔を合わせ、話し、食べ、遊び、歌うことに使うべきなのではないだろうか。それこそが、モモがどろぼうたちからとりもどした時間だった。時間が金に換算される経済優先の社会ではなく、人々の確かな信頼にもとづく生きた時間をとりもどしたいと切に思う。

(出典 山極壽一「ゴリラからの警告『人間社会、ここがおかしい』」)

(注) 担保——将来の損失に備えて、あらかじめ補う用意をしておくこと。

① 〳〳の部分A、Dを漢字に直して楷書で書きなさい。また、〳〳の部分B、Cの漢字の読みを書きなさい。

② 「経過」と熟語の構成が異なるものは、ア～エのうちではどれですか。当てはまるものを一つ答えなさい。

- ア 蓄積    イ 接触    ウ 共鳴    エ 節約

③ 「**①**しかし、今は違う」とあるが、この部分について説明した、次の文の **X**、**Y** に入れるのに適当なことを、**X** は五字、**Y** は十五字以内で、それぞれ文章中から抜き出して答えなさい。

かつてはかかった時間が長ければ、遠い距離を移動したことになるが、現在は移動手段の発達によりお金をかければ **X** できるようになり、**Y** ということ。

④ 「**②**私はそれを、野生のゴリラとの生活で学んだ」とあるが、筆者が学んだことについて説明した次の文の **□** に入れるのに適当なことを、三十五字以内で書きなさい。

人々が信頼の輪を築くためには、**□**。

⑤ 「このフアンタジーは現代の日本で、**ますます重要な意味をもちつつあるのではないだろうか**」とあるが、筆者の主張を説明したものとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。文章全体を踏まえて、一つ答えなさい。

ア 現代の人々は時間を金で買うことができると信じて少しでも自分の時間を確保しようとしているので、今後「時間が盗まれ」という寓話が現実のものとなった場合の対処法を作品から学ぶべきだ。

イ 現代の人々は無駄な時間を省いて子どもの成長を促すことに時間をかけたいと考えているので、「時間貯蓄銀行」のように限りある時間を必要とするために貯めておくという発想を大切にすべきだ。

ウ 現代の人々は時間を金に換算しようとするほど時間に価値を見出しているが、同じことをして失敗した「灰色の男たち」を教訓として人々との信頼関係を育むことに重点を置いて生活するべきだ。

エ 現代の人々は効率のよさを重視して情報としての文字を扱うことばかりに時間を費やしているが、「モモ」が行ったように直接人と関わってコミュニケーションをとる豊かな時間をとりもどすべきだ。

⑥ この文章の表現の特色とそのねらいを説明したものとして **適当でない**のは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 「時は金なり」ということわざの意味がどのように推移したかを紹介すること、時間に対する人々の考え方の変化を強調しようとしている。

イ 「記憶」に「時間が紡ぎ出す」「優しい」という修飾語を付与することで、人々が時間をかけて関わり合った記憶のかけがえのなさを印象づけている。

ウ 「声・身体」と「文字・情報」とを対比させることで、身体を介さないで行われるコミュニケーションの問題点を指摘しようとしている。

エ フェイスブックやチャットという現代の情報発信の手段を話題に出すことで、他者との交流が容易になった現状に対し肯定の意思を示そうとしている。

2

「早苗」はある事情から、十歳の息子「力」と二人で日本各地を転々とし、現在別府市で仮住まいをしている。温かい砂を体にかぶせる砂湯という観光施設で砂かけの仕事始めた「早苗」は、「マイスター」と呼ばれる「安波」たち熟練者との力の差を感じていた。ある日、目の不自由な女性とその夫が砂湯を訪れたが、時計を目視できない女性は、時間を計る目安が何もない環境を気にしていた。これに続く次の文章を読んで、①〜⑤に答えなさい。

「あの……っ！」  
その時、早苗の口から咄嗟に声が出た。  
安波や、その場にいた砂かけたたちが一斉にこちらを見る。勢いそのまま、言うてしまう。  
「@よければ私、歌いましうか」  
「えー！」  
驚きの声はお客さんたちではなく、砂かけた方の方から上がった。それも当然かもしれない。口にした早苗自身、そんな勇気が出たことに驚いている。  
しかし、想像してしまったのだ。  
早苗自身も入った経験があるからわかるけれど、砂湯の中では時間が何倍も長く感じられる。それが気持ちよく感じられればいいけれど、目安となる終わりの時間がわからなければひよっとしたら不安な気持ちになるかもしれないし、もし熱くなったら、その時間が苦痛にならないとも限らない。せつかく砂湯に来たのにそんなふうには思っただけでほしくなかった。  
「ご迷惑でなければ、ですけど」  
苦笑しながら、早苗が言う。

「これでも私、若い頃、劇団にいたことがあるんです。舞台の上で歌ったこともたくさんあります。もしよければ、好きな歌をリクエストしてください。あとは、私が歌詞をちゃんとわかればいいんですけど」  
「……じゃあ、あれは、どうかしら」  
奥さんが言う。最初だけ、歌う。  
「はーるを愛するひとーはー、っていう、春夏秋冬のことを歌った歌」  
「あ、『四季の歌』！」  
横で作業していた姫野が言う。そのまま彼女が「ちよっと待っててくださいねー」と鋤簾をその場に立てかけ、走り出す。  
タイトルは知らなかったけれど、その歌なら早苗にもメロディーとだいたいの内容がわかった。「わかりました」と答えて、深呼吸をする。その間に、姫野がぱつと戻ってきて、「歌詞です」と自分のスマートフォンを早苗の手に渡してくれる。検索してくれたのだろう。  
早苗はそれを受け取って小さく頷き、そして、歌い出した。

春を愛する人は 心清き人  
すみれの花のような ぼくの友だち  
最初の“春”を歌った瞬間に、砂かけの同僚たちが息を呑む気配があった。すごい、うまい、という声が洩れるのが聞こえたが、早苗は努めて気にしないようにする。知り合いの前では当然照れくささもあるが、舞台上に立っていた頃に気持ちを合わせていく。  
夏を愛する人は 心強き人  
岩をくだく波のような ぼくの父親  
秋を愛する人は 心深き人  
愛を語るハイネのような ぼくの恋人

歌う途中から、砂湯に入っていた奥さんとご主人の表情が柔らかくなったのはつきりわかった。旦那さんの方も、今は目を閉じている。  
ひよっとすると、二人にとっては何か思い出のある歌なのかもしれない。奥さんの方が、小さな声で、早苗の歌う声に合わせて「……ハイネのような」と一緒に口ずさんでくれる。その声が届いたのか、旦那さんの方も、少し遅れて、一緒に歌う。

冬を愛する人は 心広き人  
根雪をとかず大地のような ぼくの母親  
重なる歌声を聞きながら、歌詞がふつと、早苗の胸を打った。  
この歌の中で、母親は、冬に登場するのだ。  
母親という存在が、無条件にあたたいものだと信じられているからこそ、きつと、厳しい寒さを歌う冬に出でくるのかもしれない。  
不思議なものだと思う。昔、この歌を聞いた時、早苗は、「友だち」とか「恋人」の言葉の方に気持ちが向いていたように思う。「父親」と「母親」は、当然、自分にとっての父と母のことを考えていた。  
しかし、今歌うと、考えるのは力のことだ。歌の中に登場する「父親」と「母親」は、自分や、夫のことを想像してしまう。  
目の前の、これから冬に向かうのであるう広い広い海を見る。歌声が、その向こうに見える、白い太陽の中に吸い込まれていくように感じた。  
秋の空が、とても高い。

歌い終えると、姫野をはじめとする、他の砂かけたたちがびつくりした顔のまま、早苗を見ていた。姫野が胸の前で小さく手を合わせ、ジェスチャーだけで音が出ない拍手をする。他のみんながそれを真似しようとする気配があったところで、安波が「そろそろお時間ですね」と、砂に入った二人に言った。  
お客さんの前で身内同士が褒め合うような場面は、早苗としても見せたくないかった。第一、照れくさい。  
そそくさと身を屈め、安波を手伝う。砂を払った奥さんが砂から起きる時、「失礼します」と腕を取ると、声でわかったのか、奥さんが「ありがとう」と言ってくれた。  
「あなた、とても上手ね。歌手になれそう。驚いちゃった」  
「そんな……。とんでもないです」

苦笑しながら言うのと、彼女が「ううん」と首を振る。見ると、頬に一筋、涙が流れたような跡が見えて、早苗は驚いた。彼女が続ける。  
「この歌ね、私、本当に大好きなの」  
ありがとう、ありがとう、と早苗の手を取って、何度も言う。

砂湯から建物の方に戻り、内湯で砂を完全に落とすの手伝う。準備の時より安波も早苗を頼りにしてくれて、身体を拭くのも着替えるのも、早苗がやらせてもらった。一緒に歌った、というただそれだけのことだけれど、お客さんも砂湯に入る前の恐縮した様子が消えて、早苗の手にすんなりと任せてくれた。砂湯であたたまったおかげももちろんあるだろう。奥さんの白かった頬に赤みが差し、手伝っていても、身体からはふんわりとした熱が感じられる。  
ご主人とともに何度もお礼を言いながら帰っていく二人の姿が車に消えていくまで、安波と二人、手を振って見送った。

「喜んでもらえてよかったですね」  
早苗が言うのと、安波が頷いた。  
「たまにね、介助が必要なお客さんが来る時には、こげんやって着替えや入浴まで手伝うことがあるんよ。せつかく来たんやもん。入って行ってほしいよね」  
安波が早苗を見る。そして笑った。  
「早苗ちゃん、あんたしつかり売り物、あるやないの」  
「え？」  
「砂かけ師にとつての一人芸」  
あ、と思う。

だいぶ前にマイスター試験の話をしていて、安波に言われたことだ。この砂かけ師たちはみんな、何か一人芸を持っている。砂かけ師としての自分の売り物が何かということ、考えておくようにも言われた。  
「あげん歌がうまいなんて知らなかったわ」と言われて、顔が上げられ、ないほど、今更恥ずかしくなる。  
「単にカラオケがうまいとか、そういううまさ違うんは、うちにだってわかったよ。腹式呼吸っていうん？ おなかから声が出てて、ひとつひとつ、言葉がはつきり聞こえてよ」  
「……指導してくれた演出家が、厳しい人だったんです」  
言いながら、安波が前に言っていた言葉を思い出す。

——自分が取り柄やと思っちょらんようなことでも、他の人から見るとすごいことゆうことがある。  
そう聞いても、自分にはそんな取り柄は何もないと、今の今まで、本当にそう思っていた。  
だけど、思い出す。剣会の中で、誰がどの役をする、という、役者に合わせたあて書きの脚本を鶴来が書く時、早苗が演じる役には必ず歌のシーンが入っていた。歌わせるなら早苗だ、と厳しい鶴来が思っつけていることが伝わり、そのことがとても嬉しく、誇らしかった。  
⑥こんな私にも、取り柄はあったのだ。(出典 辻村深月「青空と逃げる」)

- ① 〓の部分A、Dの語のうち、他の三つと品詞が異なるものはどれですか。一つ答えなさい。
- ② 「@よければ私、歌いましうか」とあるが、このときの「早苗」の心情を説明した次の文のX、Yに入れるのに適当なことを、Xは文章中から十五字以内で抜き出して答えなさい。また、Yは二十五字以内で書きなさい。  
砂湯に入るとXことを経験して知っているため、目の不自由な奥さんがYことを案じ、助けになりたいと懸命になっている。
- ③ 「歌詞がふつと、早苗の胸を打った」とあるが、これについて説明したものとして最も適当なのは、ア、イのうちではどれですか。一つ答えなさい。  
ア 厳しい寒さを歌う冬の歌詞に母親のあたたかさが見出せるように辛い仕事の中にも喜びはあると気づき、希望を抱いたということ。  
イ あたたかい母親が冬の歌詞に登場することの意味を自分の母親を思い浮かべながら解釈し、思慕の念がわき上がったということ。  
ウ 冬の歌詞に出でくるあたたかい母親像と息子に十分なことをしてやれない自分との差を痛感し、悲しみが募っていったということ。  
エ 母親とはあたたかいものだという信念にもついた冬の歌詞の奥深さを親となった今初めて感じ取り、感動を覚えたということ。
- ④ 「こんな私にも、取り柄はあったのだ」とあるが、ここでの「早苗」について説明した次の文の□に入れるのに適当なことを、三十五字以内で書きなさい。  
一緒に歌を歌った奥さんが自分に心を開いてくれたことや、□ことに思い至り、歌こそが自分の取り柄なのだと認めている。
- ⑤ この文章の表現の特徴について説明したものとして**適当でない**のは、ア、イのうちではどれですか。一つ答えなさい。  
ア 周囲の人の気配や表情を描写していくことで、早苗の歌がいかに巧みであるかが間接的に伝わるように工夫されている。  
イ 歌詞を何度も引用した歌の場面の丹念な描き方は、注目を浴びることで奮い立つ早苗の一面を強調する仕掛けになっている。  
ウ 早苗が歌いながら目にする広い海や高い空の情景描写により、早苗が心を解放させていく様子が印象づけられている。  
エ 気さくで温かい人柄を感じさせる安波は、早苗が自分と向きあい自信を取り戻すための鍵となる人物として描かれている。

次の文章は、藤原定家が編纂した『小倉百人一首』に関する文章である。これを読んで、①～④に答えなさい。

(四枚のうち三枚め)

田子の浦にうち出てみれば、白妙のふじのたかねに雪はふりつつ

壮大な景色を詠んだ万葉集を出典とする和歌です。意味は、

駿河の国の田子の浦の、ながめがよいところに進み出て、はるか彼方を見渡すと、真つ白な富士山の高嶺に、今も雪はしきりに降っていることだ。と解釈できます。

作者の山辺赤人は、奈良時代、柿本人麻呂と並ぶ「歌の名手」といわれ、『万葉集』巻第十七の三九六九番歌の詞書には、この二人の名をとって、和歌の道を「山柿の門」と呼んでいます。

この歌は、それに恥じないスケールの大きさを持つていると思われまふ。白妙の続く田子の浦から富士山を眺める、というイメージも雄大ですし、すぐ近くに見える富士山が雪化粧しているさまもなんだかりっぱな絵を見ているようです。

しかし、この歌を出典の『万葉集』と比べてみると、実は語句が異なっているのです。原文では、「ますらをぶり」(男っぽい様子)と呼ばれるにふさわしい骨太な調べを奏でています。次に①『万葉集』版を記しておきますので、ちよつと比較してみてください。

田子の浦ゆうち出て見れば真白にぞ富士の高嶺に雪は降りける

いくつか違いがあったでしょう? 「田子の浦ゆ」の「ゆ」とは、万葉集時代の言葉で「何々を経由して」という意味です。また「白妙」は「真白」という、やや男性的なたくましさを含んだ語になっています。そして、「雪は降りける」は、余韻のような効果をあげている。「c」と異なり、言い切った感じになっています。みなさんは、どちらが好みですか。

このような「改変」が行われたのは、『万葉集』とは異なる定家独自の新古今調主義によるのです。げんに、定家を選んだ『新古今和歌集』にも入っているこの歌は、その時点で「改変」が行われていたのですから。定家の頭には、万葉調の、少しごつごつした響きより、余韻の残る新古今調の方が勝っているという観念があり、百人一首を編纂するとき、おそらく迷わずに『新古今和歌集』の歌形を選んだのではないのでしょうか。

(出典 田中貴子「古典がもつと好きになる」)

中学二年生の吉田さんと南さんのクラスでは、来年度入学する予定の小学六年生を歓迎する計画に取り組んだ。次は、小学生に対して実施したアンケート調査に基づき、吉田さんの班と南さんの班がそれぞれ立案した企画を発表している場面である。発表内容を読んで、①～③に答えなさい。

【吉田さんの発表】

私たちは、「Q&Aカード」の作成を企画しました。アンケート調査の結果を見ると、小学生は中学校生活に対して不安感が強いようです。そこで、中学一年生から体験談を聞き取り、それをもとに小学生にアドバイスすればよいと考えました。カード形式にしたのは、直接話をするよりも落ち着いて読むことができ、また、手元に残していつでも気軽に見返せるからです。この企画により、前向きな気持ちをもって入学してもらえないかと思えます。



【吉田さん】

【南さんの発表】

私たちは、中学校紹介ビデオの鑑賞会を企画しました。みなさん、小学生だった頃の自分を思い出してください。中学校生活がどんなものか想像できていましたか。特に兄や姉がいない人にとっては、Xの結果が現状です。私たちはこの点に着目して話し合った結果、今回の企画を思いつきました。「百聞は一見にしかず」と言います。ある中学生の一日や部活動の様子などを撮影し、小学生に見てもらうことを提案します。



【南さん】

- ① 【南さんの発表】が論理的なものとなるために、Xに入れるのに最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
- ア 中学生の様子を知る機会がない
- イ 年長者と話すのに慣れていない
- ウ 勉強を教えるもう手段がない
- エ 小学生の思いを伝えられない

- ② 【吉田さんの発表】の特徴について説明したものととして**適当でない**のは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
  - ア 企画提案の根拠と具体的な取り組み内容を順序立てて説明している。
  - イ 聞き手に語りかけて、企画内容に共感を得られるように工夫している。
  - ウ 企画のポイントと利点について聞き手に伝わるように工夫している。
  - エ 先を見据え、企画の実施後に期待できる効果についても説明している。
- ③ 吉田さんの班の企画を採用し、分担して「Q&Aカード」を作成することにした。資料Ⅰ～資料Ⅲはそれぞれ次のとおりである。

- ① 「白妙」は枕詞であるが、枕詞と修飾される語の組み合わせとして正しいものはア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
- ア 「くさまくら」と「黒」
- イ 「たちねの」と「旅」
- ウ 「ちはやぶる」と「神」
- エ 「ひさかたの」と「母」

- ② 「『万葉集』版を記しておきます」とあるが、筆者が『万葉集』の和歌を引用した意図として最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
- ア 時代とともに日本語が大きく変化したことを、同じ助詞が別の意味を表す例を用いて説明するため。
- イ 奈良時代の特徴である雄大な自然の描写が百人一首に引き継がれていることを、例を挙げて示すため。
- ウ 百人一首と出典の和歌との間に表現や印象の違いがあることを、語句の比較を通して説明するため。
- エ 歌の名手と讃えられる二人に対する筆者の敬意を、二人の和歌を並べることによって強調するため。

- ③ cに入れるのに適当なことばを、和歌の中から四字で抜き出して答えなさい。
- ④ 次は、この文章を読んだ中学生が書いた、百人一首についての感想文である。X、Yに入れるのに適当な言葉を、Xは二字で文章中から抜き出し、Yは三字で考えて書きなさい。

『小倉百人一首』には、編纂された時代から約五百年も前の『万葉集』から和歌が選ばれていることを知り、驚いた。さらに、古い和歌の表現をXすることもあった定家は、和歌に対する自分なりのYを持つていたと筆者は述べている。定家のこだわりが、歌集全体に定家らしさを与えていると気づき、編纂者に焦点を当てて歌集を味わうことの面白さを知ることが出来た。

資料Ⅰ【小学六年生に対するアンケート調査の結果の一部】  
資料Ⅱ【中学一年生からの聞き取りメモの一部】  
資料Ⅲ【作成中の「Q&Aカード」の一部】

資料Ⅲが小学生の不安を解消するものとなるよう、資料Ⅰと資料Ⅱを踏まえて、Yに入れるのに適当な内容を、条件に従って五十文字以上七十文字以内で書きなさい。

- 条件
- 1 二文で書き、一文目は解答欄の書き出しに続く形にする
  - 2 資料Ⅱの情報を用いて、小学生に伝わりやすいように表現すること。

資料Ⅰ

◎アンケート調査の結果  
「中学校生活について心配なこと」  
○勉強が難しくなること  
○先輩との関係  
○他の小学校出身者との関係  
○部活動の大変さ

資料Ⅱ

中学一年生からの聞き取りメモ  
○入学後のオリエンテーションや部活動体験の後で部活動を選んだ。  
○教科ごとに先生が違うので、授業の受け方に関する説明をすっかり聞いた。  
○授業でわからなかったところはその日のうちに先生に質問した。  
○部活動を通じて先輩や他の小学校から来た人ともすぐに仲良くなった。  
○中学生は放課後も忙しくなるが、宿題と予習は欠かさずやった。

資料Ⅲ

Q & A カード

Q. 勉強と部活動の両立ができるかどうか心配です。どうすればよいですか。

A. 両立のためには、Y。